



◆マラリア感染への予防対策

蚊よけ対策を徹底し、マラリア予防薬を服用することによりマラリアからの感染を防止する対策があります。（現在マラリア予防のワクチンはありません。）

◆下記のマラリア予防薬を常備しております。

- マラロン
- メファキン
- ビブラマイシン

マラリア予防薬には幾つかの種類があり、どのマラリア予防薬を選択するかは、渡航先、期間、年齢、基礎疾患等を考慮して選定します。

1. マラリアとは

マラリアは、マラリア原虫と呼ばれる寄生虫によって引き起こされる発熱性感染症です。このマラリアに感染した蚊（ハマダラ蚊）に刺されることによりマラリアに感染します。

2. マラリア感染による症状

マラリアには下記の4つの種類があります。

マラリアの種類	潜伏期と特徴的な症状
熱帯熱マラリア	潜伏期：5～10日。 高熱が持続し、感染初期に適切な治療をしないと死に至ることがある。
三日熱マラリア 卵形マラリア	潜伏期：10～30日。悪寒期、灼熱期、発汗期が明瞭に区別される特有の熱発作を48時間ごとに繰り返します。
四日熱マラリア	潜伏期：10～30日。悪寒期、灼熱期、発汗期が明瞭に区別される特有の熱発作を72時間ごとに繰り返します。

<その他の主な症状>
発熱、悪寒、筋肉痛や関節痛、疲労感、下痢や吐気、頭痛、咳
＊マラリアの症状は感染後早くて1週間から、遅いとマラリア流行地を出て数ヶ月経ってから発症する場合があります。

3. マラリア感染のリスクとは？

- ・マラリア感染へのリスクは国の中でも場所ごとに異なります。例えば、都市部ではリスクが少なく、田舎部ではリスクが高まります。また、冷房の効いているホテルに滞在する旅行者の方がバックパッカーや冒険等の旅行者より感染のリスクは低くなります。
- ・マラリアは一般的にはサハラ砂漠の南部、アフリカ諸国、インド、東南アジア、南アメリカやドミニカ共和国などで発生します。
- ・マラリア予防薬の処方を受ける際には、訪れる地域を医師に正確に伝えることが大切です。

4. マラリア感染への予防対策

- ・マラリアに感染した蚊に刺されることを防ぐことが第一の予防策。
- ・暗くなってからの外出を避ける。
- ・長袖、長ズボンを着用する。（特に夕暮れと夜明けは明るい色の衣服。）
- ・露出している肌へは防虫剤を使用する。
最も効果的な防虫剤はD E E T（ディート）です。
 - 成人：25-50%濃度のD E E T
 - 子供：10%以下のD E E T
 - 使用方法をきちんと読んで正確に使用する
- ・室内では、蚊取線香や電気式蚊取器具を使用する。
- ・睡眠時は蚊帳（特に殺虫剤を染み込ませたもの）を使用し、布団の端を中に入れる。

5. マラリア予防薬について

当クリニックではメファキン、マラロン、ドキシサイクリンを常備しております。医師の診察により処方いたします。

- － 下記に該当する方は必ず申し出下さい －
- ・薬にアレルギーがある方
 - ・G6PD欠損症（赤血球が酸化ストレスに弱い）
 - ・妊娠（可能性も含む）や授乳中の方
 - ・お薬を服用中の方（一時的、常用中）

マラロン（Malarone®）

世界各国で幅広く使用されている抗マラリア薬

商品名称（一般名称）	マラロン（アトバコン／プログアニル合剤）
英語表記	Malarone®（Atovaquone/Proguanil）
服用方法	成人：1日1錠内服
服用期間	マラリア危険地帯に入る2日前から服用開始し、危険地帯を出てから1週間服用を続ける
メリット	・耐性が少ない ・副反応（吐気、嘔気、腹痛、頭痛、下痢等）が極めて少ない ・うつ状態などの精神神経疾患や不整脈のある方でも安全に使用できる
デメリット	・高価 （日本では未承認薬のため、輸入薬です。その為、一錠当たりの価格が高く、長期に服用する場合はコストがかかる） ・妊娠または5Kg以下の幼児を授乳中の方は服用不可

ビブラマイシン（Vibramycin）

テトラサイクリン系の抗生物質ですが、マラリア予防薬としても使われている薬

商品名称（一般名称）	ビブラマイシン（ドキシサイクリン）
英語表記	Vibramycin（Doxycycline）
服用方法	1日1錠服用
服用期間	マラリア危険地帯に入る2日前から服用開始し、危険地帯を出てから4週間服用を続ける
メリット	・安価 ・メフロキン耐性地域のタイ、カンボジア、ミャンマーに効く
デメリット	・毎日服用の為、大量服用の必要があり、下痢、口腔にカンジダなどのカビが生えやすくなるなどの副作用が見られる ・光線過敏症を起こす可能性がありますので、服用中は直射日光を避ける必要がある ・小児では歯骨の発育障害
禁忌	・8歳以下の小児 ・妊娠中の方